

東京・新宿六丁目遺跡

しんじゅくろくちょうめ

遺構の年代は、出土遺物からみて一八世紀第Ⅱ四半期である。

8 木簡の釈文・内容

1 所在地 東京都新宿区新宿六丁目

2 調査期間 二〇〇二年(平14)四月～二〇〇三年一二月

3 発掘機関 東京都埋蔵文化財センター

4 調査担当者 斎藤 進・江里口省三・石橋峯幸

5 遺跡の種類 遺物散布地・都市跡(屋敷地)

6 遺跡の年代 繩文時代・中世・近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

新宿六丁目遺跡は、武藏野台地の東側に広がる淀橋台地上に位置する。標高は台地上で30m、斜面地で24mを測る。調査面積は

三四七〇九²mである

調査の結果、台地上で広

瀬藩松平家下屋敷に関わる

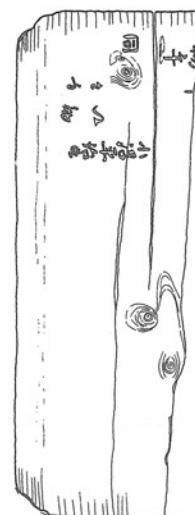
遺構を含む、掘立柱建物・

井戸・溝・地下室・道・土

坑などを検出した。

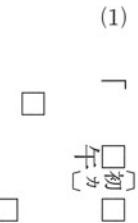
木簡は、広瀬藩松平家下

屋敷の一四一五遺構(井戸)から一点が出土した。



(斎藤 進)

東京都埋蔵文化財センター「新宿六丁目遺跡」(東京都埋蔵文化財センター調査報告一六二、二〇〇五年)



〔マ〕 (別二刻印アリ) (14)×492×6 061

箱の板材と考えられる。下半部のみ残り、片面の一角に墨書があり、また図化は難しいが刻印が残る。文字はいずれも墨書と考えられるが、色落ちし、墨痕のあつた部分が白色に浮き出ている。判読可能な文字は人名と思われるものなどである。

9 関係文献

東京都埋蔵文化財センター「新宿六丁目遺跡」(東京都埋蔵文化財

センター調査報告一六二、二〇〇五年)